



紅茶を 飲みましょう

私は、日本とネパール・インドを歩き来しながら、ヒマラヤの奥地にて紅茶を買い付けている紅茶商人の前川と申します。飲食店や小売店に紅茶を卸したり、紅茶教室を開催したりしています。

仕事柄、紅茶を飲むことが多いのですが、どうも紅茶がいまいち浸透していません。に思えてならないので、簡単に楽しめる極上のティータイムの過ごし方をご紹介します。紅茶を楽しむのはとても簡単です。いい香りの茶葉にグツグツと沸かしたお湯をジャバジャバとかけると、茶葉がフワフワとお湯の中で舞い上がります。よく見るとこの時、



羽ノ浦町
前川 達哉さん

茶葉から紅茶の成分が染み出ているのが見えるんですね。このユラユラとうごめく紅茶のオーロラはいつまでも見入ってしまいます。3分待ったらいったん別の容器に最後の一滴まで移し替えましょう。この最後の一滴があま〜い香りを持っているのです。お気に入りのカップに注いで完成。

おいしいお菓子をほおぼりながら、紅茶で至福のひと時を過ごしましょう。仕事の合間にホッとひと息つくもよし、昼下がりに友人たちとおしゃべりしながら楽しむのもいいですね。そうそう、お菓子も妥協できません。あの店のロールケーキにしようか、それともあの店の手作りパンにしようか。あの店のギモーヴもいいかも。さあ、今日のおやつは紅茶とお菓子にしましょう。

次は、見能林町の津山志津子さんをお願いします。

市民文芸

短歌

阿南市文化祭短歌大会選

盆過ぎて夕べの木々に鳴く蝉の声高々と空に吸われる
林 ヤス子

クールアイスに頭部預ける熱帯夜脳ひんやり水中浮遊
湯浅佐智子

あかときの草生にすだくコオロギに教えられている秋の入口
長尾 久子

刈られたる新藁放つ青臭き匂い纏いてウオーキングする
山本 賀代

「あなた誰」こんなことにはならぬうちもう一度逢いたき人のある
宮本久美子

頬撫でる風の流れに領づきぬ秋への傾斜は僅かな短針
黒部 君代

癒ゆること無き友よりの遠電話語り盡くせぬ遠き昭和よ
神原 常経

俳句

阿南市俳句連合会選

風呂の湯も少しぬるめの春の夜
池田 福美

隊列の一二三四チューリップ

八十の婆も乙女や雛まつる

梅月夜只管打座てふひと間かな

灯を消せば淋しき残る雛の間

風光る偉容あらわる新庁舎

早春の香りのせてる患者食

河口にも潮巻き上ぐ余寒かな

焼きたてのパンの匂いや木の芽雨

北窓に表八畳春炬燵

関山 和女

瀬藤 豊子

田村 清朔

板東美恵子

数藤 耕風

手塚 真帆

松本すず子

五光 春海

大西 里美

川柳

阿南川柳会 高木旬笑選

心経を奏でるような母白寿

足るを知り日々極楽という思い

学力が老母おいてけぼりにする

上品な手には似合わぬ軍手です

夜叉の面秘めて外面とぼけ顔

滝川 太郎

田上 鶴子

武田 敏子

鈴木レイ子

岩佐まさよ